

## 会議録

名 称 平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針検討委員会（第１回）

日 時

令和７年２月５日（水）

午後１時３０分から午後３時３０分まで

場 所

平塚市美術館ミュージアムホール

### 出席者

委員１０人（山崎委員、湯川委員、吉田委員、秋山委員、相原委員、伊澤委員、工藤委員、平出委員、木村委員、二見委員）

吉野教育長、事務局１１人（教育総務部長、学校教育部長、社会教育部長、教育総務課長、教育施設課長、学務課長、教育指導課長、教育指導課学校安全担当課長、中央公民館長、教育総務課企画担当課長代理、企画担当１人）

### １ 開会

### ２ 委嘱状交付

教育長から委員に委嘱状を交付した。

### ３ あいさつ

教育長からあいさつがあった。

### ４ 委員及び出席者の紹介

委員及び出席者で自己紹介をした。

### ５ 委員長及び副委員長の選任について

委員長及び副委員長に、それぞれ山崎委員及び湯川委員が選任された。

### ６ 議題

#### （１）委員会の公開について

<委員長>

議題１ 委員会の公開について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

当該委員会の会議は平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針検討委員会傍聴要領から、原則公開会議としている。ただし、個人情報や個別具体的な学校名で議論が必要な場合は、個人情報の保護、特定地域への影響を鑑み、全部または一部を非公開とすることができるとしている。本日の委員会については、個人情報や具体的な学校名をあげる議題はないため公開会議となる。撮影・録音については、本日を含め、今後についても許可しない。

また、会議録については、会議開催後簡易な会議概要を市ホームページで公開し、その後、発言の要点をまとめた会議録を公開する予定である。

<委員長>

説明のあった委員会の公開について、委員に諮り、異議がないため承認する。

本日の傍聴希望者の有無について、事務局に確認したところ、本日の傍聴希望者はいない。

## (2) 諮問について

教育長から委員長へ学校の適正規模について諮問がされた。委員会は諮問に対して答申をするために検討を始めた。

## (3) 検討内容について

### ア 検討していくに当たっての考え方

事務局から資料5～10について説明がされた。

<委員長>

事務局から資料の説明があった。意見、質問等あったら発言を求める。

<委員>

資料5の4ページ配慮すべき3つの視点について質問である。児童生徒、地域コミュニティ、公共施設に加え、学校からの避難という観点も必要ではないか。災害時のインフラ状況も考慮すべき。避難距離が長くなる場合、48時間参集という基準があると思うが、それで良いのか検討が必要かと思う。

また、児童数が少ない学校の良し悪しをどのように考えるかも重要。少ない学校の良い点も考慮し、比較検討した上で結論を出す必要があると思う。

<事務局>

避難所関係については、資料5の4ページ、②の地域とのコミュニティの視点で想定しておりましたが、より具体的に資料を準備し、提示できればと思う。児童数の良し悪しについては、児童生徒最優先の視点で、人数が多い場合、少ない場合のメリット・デメリットを整理し、提示したいと思う。

<委員>

避難所ではなく、48時間以内の保護者による迎え、避難という視点である。

<委員>

通学距離の適正距離について質問である。文科省でも基準があると思うが、平塚市の現状は国の基準を満たしているのか。

<事務局>

適正距離の明確な基準は設定していない。資料5の3ページ 現状と課題④の通学路の現状で2kmを超える小学校が3校あるが、その場所に居住する児童がいるかまでは把握できていない。資料9の小学校学区一覧の通学区域をもとに、学務課が通学路を示した上で通学しているのが現状である。

<委員長>

将来的な学校再編における物理的な距離の変化も考慮する必要がある。

<委員>

通学距離について、ちょうど平塚市では小規模特認校が導入をされる予定になっていてかなり遠くから来る児童生徒もいると思う、そちらの研究も進めていってほしい。

一方で、まちづくり視点も重要。教育とまちづくり両面からのコミュニティ形成を期待する。平塚市の個性や教育の視点からの判断基準も必要で、耐用年数等の機能的、画一的な基本方針にはしないほしい。

<委員長>

人口推計グラフについて、2070年までなだらかに減少していくイメージ。適正規模について、国の基準（12～18学級）があるが、平塚市独自の視点での適正規模を検討する必要があるのではないか。

<委員>

適正規模は学級数だけでなく、教員数も関係する。資料6で特別支援学級が増加している状況に着目すべき。児童生徒数は減っているが、特別支援学級増で教員数は減っていない。児童生徒だけでなく、学校運営していく教員も考慮した適正規模を検討する必要がある。中学校も35人学級導入によるシミュレーションも必要ではないか。

<委員長>

特別支援学級の増加で物理的に教室が足りない学校もあるという話を聞いている。これからハード面の話になっていったときに枠を作ってしまうと運用が難しくなるので、弾力的な運用ができるようにすることが必要な時代になってきたと考えている。

<委員>

特別支援学級の増加は、様々な要因が考えられるが、教育委員会、学校、そして地域社会が連携し、子どもたち一人一人のニーズに合わせた教育環境を整えていくことが重要である。

<委員>

教育サービスとしての質を維持したまま5年後、10年後を迎えるのか、質を変容させていくのかで未来が変わる。大学で全てオンライン授業とする例も出てきていると話を聞いた。不登校の子どもたちの対策にもなるかもしれない。平塚市モデルの教育の質向上、地域コミュニテ

ィとしての成立、保護者からの評価、子どもたちの満足度向上をキーワードに検討してはどうか。

<委員>

スクールバスの活用も検討すべき。今すぐは技術的に無理でも、将来的に自動運転技術も視野に入れると、通学手段は変化する可能性がある。教育の特徴化も重要。親が教育内容で学校を選べるように、小規模校、大規模校のほか自然がある学校等、それぞれ特徴ある学校づくりも検討してはどうか。

<委員長>

海外の教育事情も参考に、クラス単位ではなく学年経営の視点も取り入れるべきではないか。明治以来の教室という固定的な器にとらわれず、アクティブラーニング、TT（ティームティーチング）など、多様な教育展開に対応できる弾力的な空間設計が必要。

<委員>

教員定数は国が決めているため、自由度がないのはどの自治体でも同じ状況。アレンジしてクラスを作っても教員の数は実質決まっている。先進事例の情報があったら提供いただきたい。

<委員>

教員不足、教員の疲弊も考慮すべきだが、子どもを真ん中に置いた議論が必要。大人の都合ではなく、子どもの未来を最優先に考えるべき。

<委員>

学区の弾力化、学校選択制導入も検討課題となるか気になっている。小中一貫校、コミュニティスクール、学校施設複合化、防災視点も視野に入れるべきか。都心部ではビルに小学校が入っているケースもある。

<委員>

学区の境目に住む家庭で学校を選べる学区選択地域がある自治体もあるが平塚市にはないか。

<事務局>

平塚市にはない。

<委員>

子ども中心に、子どもの安全を考えるとやはり学校が自宅近くにあるということもある。

<委員>

学校再編された結果、30キロ以上の距離をバスで通学している例も聞いている。地域によって実情は違うものと思われる。

<委員>

学区選択制について、他市の事例、メリット・デメリットの情報提供を希望。小規模校での複数年複式学級の状況についても情報提供を希望する。

<委員>

今後の交通体系の変化も考慮すべき。コミュニティバスなど、IT 技術を活用した次世代交通システムも検討の余地があるのではないかな。

<委員>

教職員の疲弊で数が足りないということ、オンラインで子どもと関わっていくことの難しさ、といった現場の厳しい課題を感じている。再編でそのあたりが解決できる部分もあるかもしれない。

<委員>

大きな住宅地が一気に開発されたような地域では、現在児童生徒の数が多くても、数年後に大きく減る学校もあることが気になる。地域性がそれぞれ出ている。

他の自治体の学校では壁のない学校や、外からの視認性をあげて地域からの見守りができる学校というのもあったのを思い出した。

<委員>

基本方針の構想は何年後を念頭に置いたものなのか。

<事務局>

これからの議論になるが、今の時点では10年から20年ほど先を念頭に置いている。

<委員長>

ハード面で学校の延べ床面積については、どう考えていくべきか。

<事務局>

学校施設の個別施設計画と整合していく必要はあるが、現時点の基本方針ではそこまで具体的なものと考えていない。

<委員長>

施設のことも同時に考えた方が良く考えている。

## イ アンケートについて

事務局から資料11について説明がされた。

<委員長>

事務局から資料の説明があった。意見、質問等あったら発言を求める。

<委員>

アンケートは対象によって内容を変えるのか。

<事務局>

基本的には共通設問と対象別の設問を組み合わせていることを考えている。

<委員>

アンケートは無記名の場合、学校の特定ができないのではないかと。学校を特定しないと、適正規模を検討する上で不安がある。個人ではなく学校を特定し、今のクラス規模と比べて、多い方が良いか、少ない方が良いか、同じが良いかなどを聞くべきではないか。子どもたちには、今の学校を後輩に勧めたいか、誇れる学校かどうか、誇れる点は何か、問題点は何かなどを聞く方が、問題点が浮き彫りになるのではないかと。設問内容全体について、不安がある。

アンケートを急いで実施する理由は。

<事務局>

会議の資料として活用するため、できるだけ早く実施したいと考えたため。

<委員>

意見交換の内容を踏まえ、アンケート項目を見直して目的を明確にすべき。現状の問題点を発掘するためか、将来の展望を聞くためかで設問内容が変わる。学区によって人口も大きく変わるのでサンプリングについても慎重に検討すべきかと思う。

<委員長>

アンケートについて、貴重な意見を多数いただいた。事務局で意見を踏まえ、見直しをお願いする。本日の議題は以上である。

## 7 その他

・次回の第2回検討委員会の予定 4月25日（金）13時30分開催 ※場所調整中

## 8 閉会

以 上